



## R5の準備 のころ

校長 松田 隆幸

12月にもなると、学校はなんだか気ぜわしくなってくる。年の瀬の気ぜわしさに加え、新年度の準備も本格的に始まります。来年度の日程案が形として見え始めます。就学旅行・水上をはじめ、運動部の公式戦日程・県公立の受検日程・始業式・終業式・定期考査の部活動休止期間と試験日の日程等などです。これらに付随して、修学旅行や入試では保護者向けの説明会の日程が組み込まれていきます。教務主任の先生は大忙し。これまでコロナ禍で、変更アリ、中止アリ、折角苦労して組み上げたスケジュールも再度、組みなおし！なんて言うこともザラということ。そんなR5の準備と言えば、大きな変化もやってきます。

最大の波は、「部活動」！

これまで、岸川中学校では、生徒全員が何れかの部活動に所属することとなっていました。実際にクラブ活動所属部なる学校外のクラブチームの活動に所属する生徒を対象とした部が存在しています。その部活動ですが、既に、各種メディアでご存じの通り、文科省はR7には、部活動は学校の先生が指導するのは、平日だけのものとし、やがてはすべての活動を地域(クラブチームや習い事も含めた学校以外)へ移行していく構想を発表しています。

部活動はこれまで、多くの教育効果をもたらしてきました。①まずは心身の健康の保持増進 この発達段階の中学生にとって、好きなことに打ち込むことができることは、心の健康を保つために大きな貢献をしました。②ルールを守ること 自分たちで決めたこと、実際のスポーツなどのルール等 スポーツで言うところのフェアプレイ精神 決められたルール中でベストを尽くす。そして、③つめとして、仲間との絆 友情をはぐくみ、生涯付き合える友との出会いも部活動が大きな役割を果たしたのではないのでしょうか？部活動の功績は多大なものであると言えます。しかしながら、「少子化」のため、一つの学校が抱える部活動の部の数は学級数より多くなり、本校では通常級12学級に対して、運動部・文化部併せて、17部活動があります。1部活動あたりの部員数が減り、更に、同じ部活動の中でも、健康志向を第一として運動部に所属する生徒から、チャンピオンスポーツを目指して所属する生徒まで、そのニーズが多様化しています。目を外に向ければ、民間のクラブチームなども多くあり、既に、クラブチームに所属する生徒も多くなっています。

小学校からの習い事を辞めて中学校の部活動に入る、スポーツ少年団を退団する。そんな必要が今後なくなります。中学校の部活動は、任意の加入となります。既に市内では半数以上の中学校が実施中であり、部活動は、本来の自主的な活動として、生まれ変わります。「ん？じゃー なにもしないで家に帰ろう！」そんなもったいないことはしないで！何かしらの活動をこの貴重な中学生の時代にはやってもらいたいものです！